

勝興寺/大広間及び式台

大広間は、1653 年に建立され、勝興寺に現存する最古の建造物です。住職は、江戸時代（1603-1867 年）に、勅使や地元大名の当主といった有力者などをここで迎えていたようです。大広間の一番奥には、床が一段高くなっている小スペースがあり、貴人たちがこうした会議の間ここで座っていたのでしょう。

大広間の主な部屋は約 225 平方メートルの広さに及び、地方の寺院としては異例の大きさ

です。この部屋は、18 世紀、寺院の威信の絶頂期に現在の大きさに拡張されました。着座スペースは、座敷用の畳を一行追加して拡張され、待合室を備えた別の玄関広間（式台）が建設されました。

主たる大広間の当時の配置は、大広間にある展示用の図に描かれています。大広間の拡張は、京都の東の浄土真宗の主要寺院として、勝興寺がもつ重要性を証明するものです。

大広間と隣接する玄関広間は国宝に指定されています。